

高齢者の高マグネシウム血症発症予防を目的とした患者調査と  
取り組みの課題についての考察

- 1) 総合メディカル (株) そうごう薬局 塩田店  
2) 田隈店、3) 柳川本城町店、4) 総合メディカル (株)  
木須 涼子<sup>1)</sup>、村山 皓紀<sup>2)</sup>、古澤 弘充<sup>3)</sup>、小野 悠介<sup>4)</sup>

【目的】酸化マグネシウム (以下 Mg) 製剤の「高 Mg 血症」については、PMDA などから繰り返し注意情報が出されており、医療機関での発症・重篤化防止並びに早期発見の取り組みが求められている。今回、改めて高 Mg 血症を予防する目的で、高齢者を対象に、高 Mg 血症の自覚症状と患者の理解度について調査するとともに、今後の取り組みの課題について考察した。

【方法】2022 年 4 月～6 月 30 日の期間中で、70 歳以上かつ 990mg/日以上酸化 Mg を 6 か月以上服用継続している来局患者について、高 Mg 血症の自覚症状 (めまい、皮膚発赤、傾眠など) の確認とその症状を理解しているかについて聴取した。また、薬歴より確認した腎機能検査値 (SCr、eGFR、BUN) より「CKD ステージ G3b」もしくは「BUN 値 > 20mg/dL」の条件を満たす患者をスクリーニングし、血清 Mg 値測定の有無も調べた。

【結果】対象患者 210 名について、高 Mg 血症の自覚症状は確認されず、症状の理解についても「知らなかった」との反応があった。腎機能が確認できていたのは 49 名 (23.3%)、そのうち腎機能低下患者は 14 名 (28.6%) であった。ただし、この 14 名の血清 Mg 値は誰も測定されておらず、5 名については薬剤師から医師に血清 Mg 値の測定を提案したが、その後も測定されなかった。

【考察】今回の調査結果から、酸化 Mg を長期服用している高齢者のうち、4 人に 1 人が高 Mg 血症に必要な腎機能低下患者であることが示唆された。一方で、血清 Mg 値について薬局での確認はできておらず、医師への提案方法にも課題があることが明らかとなった。今後、保険薬局において高 Mg 血症予防のための取り組みを適切に行うためには、「定期的な高 Mg 血症の自覚症状の確認と患者教育」「腎機能検査値の確認」「血清 Mg 値測定を適切に提案するための共通目線を定めるなど、医療機関との連携構築」が必要と考察した。